

製品名: NALP3 (8Q17) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe14399**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, FC 1:50-1:100, IP 1:20-1:50
分子量	118kDa

抗原情報

遺伝子名	NLRP3
別名	FCU; MWS; FCAS; Cias1; Mmig1; NLRP3; Pypaf1; All/AVP; AGTAVPRL; Cryopyrin;
遺伝子 ID	114548.0
SwissProt ID	Q96P20
免疫原	ヒト NLRP3 の組み換えタンパク質

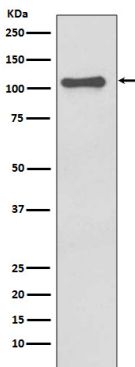
背景

NLRP3 インフラマソームのセンサー成分として、自然免疫と炎症において重要な役割を果たします。NLRP3 インフラマソームのセンサー成分として、自然免疫と炎症において重要な役割を果たします。病原体やその他の損傷関連シグナルに応答して、NLRP3、PYCARD、CASP1（場合によっては CASP4 と CASP5）からなるインフラマソームポリマー複合体の形成を開始します。プロ CASP1 がインフラマソームにリクルートされると、インフラマソームの活性化と、CASP1 を触媒とする IL1B および IL18 の成熟および細胞外への分泌が促進されます（PubMed:28847925、PubMed:33231615、PubMed:34133077）。NLRP3 インフラマソームの活性化は、HMGB1 の分泌にも必要です（PubMed:22801494）。活性サイトカインおよび HMGB1 は炎症反応を刺激する。インフラマソームは、プログラム細胞死の炎症性形態であるピロプトシスも誘導する（PubMed:34133077）。安静状態では、NLRP3 は自己阻害される。NLRP3 活性化刺激としては、細胞外 ATP、活性酸素種、K(+)流出、尿酸ナトリウムまたはコレステロールの結晶、アミロイド β 繊維、環境粒子または産業粒子およびナノ粒子、細胞質 dsRNA などが挙げられる。しかし、NLRP3 の直接的な活性化因子は不明である。細胞質 dsRNA 存在下での活性化は、DHX33 によって媒介される（PubMed:23871209）。インフラマソーム活性化とは独立して、T ヘルパー 2 (Th2) 細胞の分化を制御し、Th2 細胞依存性喘息および腫瘍増殖に関与する（相同性による）。Th2 分化において、IRF4 が IL4 プロモーターに適切に結合し、IRF4 依存性の IL4 転写に必要となる。コンセンサス DNA 配列 5'-GRRGGNARGAG-3' に結合する。IL5、IL13、GATA3、CCR3、CCR4、MAF の転写にも関与する可能性がある（類似性に基づく）。

研究分野

免疫学

画像データ



SH-SY5Y 細胞溶解物中の NLRP3 発現のウェスタン ブロット解析。